

去る 11 月 3 日～6 日までワシントン DC の Washington Convention Center を主会場にして ASCE (American Society of Civil Engineers) 総会が開催され、岸会長以下で参加してきたのでその概要を報告する。

ASCE は約 13 万人の会員を有し、年間約 60 億円の予算規模で各種研究・研修活動、アメリカの社会基盤の評価 (Report Card) 等公的機関との連携業務、雑誌・論文集発刊、継続教育を含む技術者育成プログラムの提供など広範な活動を行っている。現在会長はコンサルタントの Thomas L. Jackson 氏である。下部機構として 1989 年創設された土木界の技術研究の調整・推進と方向づけを行う CERF (Civil Engineering Research Foundation) が、また新しい本部ビル取得を機に 1995 年創設された基金として ASCE Foundation がある。一方専門技術に関する活動機関としては 1996 年に改編され、現在 7 部門に分かれて活動する準独立機構である ASCE Institutes がある。ASCE 正会員は無料でどれか 1 部門に加入できる。

今年は通常の総会に ASCE 150 周年記念行事も加わり、毎年参加されている人によれば例年とは異なる盛り上がりだとのこと。今回の参加者は海外の 41 か国からの参加者を含めて約 2600 人とのことであった。

### 1. 開会式, 展示, レセプション

開会式は 4 日午前中、当初大統領のスピーチを計画していたが、中間選挙の選挙活動最終日にあたったため不可能となり、キーノートスピーチは人気 No.1 と言われるテレビキャスター Tim Russert 氏によって行われた。また 90 周年ということもあってか、前日のレセプションも花火で演出したりと華やかな雰囲気であった。

展示はコンサルタントや建設企業の PR が太宗を占めるが、90 周年を祝う協定協会等からの贈り物の展示、ASCE の保険、クレジットカード、会員勧誘、ASCE グッズ販売コーナーなども目についた。日本の土木学会もコーナーを借り、阪神・淡路大震災後の対応について紹介と JSCE としての PR を行った。テクニカルセッション発表前後多くの訪問者があり、各種資料、特にアフガニスタン復興支援の冊子などを収集していた。

また今年の特色の一つとして、9.11. ショックとも言うべき対応が目立った。大きな動きとしては、事件後直ちに The Infrastructure Security Partnership (TISP) と名づけた ASCE, 建築家協会, 軍技術者協会などが起草し、大学、公益法人、政府団体など 130 あまりの団体がメンバーとなっている法人が創設されているが、この TISP が 3 日間に渡るプログラムを ASCE 総会と一体となって組んでいたことである。ここでは米国の公共施設をテロに強いものにするため、また火災、自然災害などの防災のため議論を展開していた。またこのプログラムの中の昼食会では連邦交通省長官のミネタ氏が連邦交通省のテロ対策の取組みに関するスピーチとフロア - との質疑応答を行っていた。なおこのスピーチもそうであったが、いくつかのゲストスピーチで最後にフロアーと質疑応答を行っているのは興味深かった。このほか注意してみると ASCE の提言などに対テロ対策の必要性に触れているのが見出される。

### 2. インターナショナルプログラム

ASCE ではアメリカ国内の市場はすでに成熟しているとの認識から、海外への展開 (Globalization) を重点的に行っている (David 前専務理事の発言)。このためインターナショナルプログラムは参加国も多い。

例年技術的なテーマやプロジェクトにかかるテーマが多いインターナショナルラウンドテーブルであるが、今年は「Corruption (汚職)」というきわめて人的な分野のテーマが設定された。モデレーターに Transparency International (TI と略す) という NGO の会長があたった。TI は主として ODA の使われ方の透明性と効率性を目指しており、USAIDS, フィンランド政府、イギリス政府、民間企業などが補助金を出している。

今回 15 か国の代表が参加し、各国の取組みを発表しているが、ケニヤ、バングラデシュなど途上国からは汚職を無くす取り組みの紹介がなされた。わが国土木学会からは岸清会長の挨拶のあと、真殿達教授によりわが国経済援助における分析が紹介され、人的資源養成の必要性を強調。韓国からはソウル市で導入されている電子入札制度の紹介があり関心を集めた。

ASCE がこのような公共事業をめぐる社会的・政治的側面に積極的に対応していることは他にも事例が多いが、この例も象徴的であり土木技術者の団体のあり方として参考となる。

国際部門のレセプションは CERF と共催で開かれ、CERF の主催する Henry L. Michel Award が本年はディズニーランドの計画・設計にコンピューターグラフィックスの手法で貢献した会員が受賞した。また今年は中国が初参加したのが目についた点である。

International Dinner には、ASCE メンバー、20 か国以上からのゲストなど約 200 名が参加し、ASCE の 150 周年をお祝いした。例年は参加者が数十名程度ということであり、今年のゲスト数の多さが際だっていた。



写真-1 インターナショナルラウンドテーブル風景

### 3. テクニカルセッション等

テクニカルセッションでは、JSCE は「阪神・淡路大震災からの教訓」をテーマに濱田政則副会長他で一セッション受け持ち、耐震設計について土木学会の取組みおよび、道路、鉄道など各構造物ごとの設計手法について紹介した。

テクニカルセッションはわが国土木学会全国大会における研究討論会に近い印象で、純学問・技術的活動は ASCE Institute

によってなされていることもあってか、ASCEの総会は、土木関係者が純技術的あるいは学問的テーマで集うだけでなくむしる社会的活動の機会、また通常遠くで活躍する人たちが顔を見せ合う機会という性格が強いとの印象であった。

たまたま聴取した技術者教育のセッションで、技術者の社会的地位向上の必要性と、技術者はもっと政治の世界に進出すべきだなどとの議論が行われていた。アメリカでは技術者の社会的地位が高いのか低いのか改めて考えさせられた。

#### 4. 名誉会員の推挙および150周年記念パーティー

##### (名誉会員推挙)

日本から前田幸雄阪大名誉教授、伊藤学東大名誉教授のお二人が選出された。

##### (150周年記念パーティー)

新会長(Thomas L. Jakson)と次期会長(Patricia Galloway)の紹介に引き続き、150周年記念パーティーが開催された。

約1000名が集まり100以上のテーブルを囲むという、非常に大規模なパーティーで、壇上にはマルチ大スクリーンが設けられ、参加者を飽きさせない巧みな演出の元、とThe Capitol Steps(マーチングバンド)やコメディアンなどによるエンターテイメントもプログラムされた非常に楽しいパーティーであった。

大学で土木・建築を専攻する女子学生たちが、色も鮮やかなイブニングドレス姿で、パーティーに彩りを添えていた。

#### 附 ASCE(アメリカ土木学会)新本部ビル見学記

ASCE 総会のオプションツアーで11月5日、ヴァージニア州レストン近郊に1997年ニューヨークから移ったASCEの世界本部(World Headquarters)見学した。当本部ビル取得のために1995年設立されたASCE Foundationの会長であるCurtis Dean氏が案内してくれた。

新本部ビルはダラス空港の近く、都心へ向かう高速道路沿い右側にあり、都心から30分あまりである。

6階建てのビル全体を約6億円で購入したが、そのうち4階までをASCEで使用しているという。ASCEの占有面積は約6700m<sup>2</sup>で、ここに250人の職員が働いている。ワシントンオフィスに50人ほどがいるので、本部全体としては300人。この職員で、全世界の13万人の会員(うち学生会員は1.8万人)へのサービスなどを、約5000万ドル(60億円)の予算で執行しているわけである。ワシントン分室は政府との連携が必要な業務を分担しているとのこと。

今回見学できたのはそのうちの2階を中心とする会議室と3階の会長以下幹部の部屋、職員の執務室である。購入後大改造



写真-2 ASCE本部ビルロビー

したという入り口は2,3階を打ち抜いた吹き抜けで美しい。基金を寄付した人々の名前が刻まれた大きな大理石のプレートが目立つ。

2階が玄関で、まず3階に上がり、会長室、役員会議室、専務理事室を見る。

会長室は移転してすでに5代目の会長の部屋であり、さまざまな調度品が飾られているが広さはわがJSCEと変わらないように感じた。その隣が役員会議室で、10人ほどがゆったりと座れる会議テーブルが置かれる。一方専務理事室は、小さな会議テーブル、応接セットと理事のデスクが配置されて、会長室の3倍はあるかといった感じである。ASCE専務理事はCEO(最高経営責任者)となっているためである。

2階の会議室は3室に仕切ることが可能な大会議室で、立体OHP、ワシントンDC分室とのテレビ会議システムなどの通信・OA施設が完備している。この会議室は会員だけでなく地域の人々にも解放されているようで、会員の使用は無料、地域の人々は有料とのこと。その立地条件と施設の優秀性から人気があるとの説明であった。

図書館はあるのかと聞いてみたところ、最新の情報はインターネットで入手できることもあって利用者が少ないこともあり廃止し、図書はカンザス州カンザス市にある科学・工学・技術図書館であるLinda Hall図書館(個人の寄付をもとに1946年創立)に寄贈したとのことであった。

執務室は多くが個室タイプで、残りがパーティションで区切られている。個人のスペースも十分あり、また単独のファイル管理室も見られた。

優れた環境と建物も印象的であったが、見学者に笑顔を送ってくれる、いかにもアメリカらしい職員の数も気持ちよかった。

#### 大韓土木学会参加報告

#### フェロー会員 古木守靖(土木学会専務理事)

韓国の大韓土木学会(KSCE)総会は11月8日(金)~9日(土)の間、プサンのコンベンションセンターで行われた。わが国からは三木千壽国際委員長、山口英輝委員と私が出席した。韓国の土木学会は1951年建築の構造技術者が含まれる以外はわが国と似た学会と言える。現在会員数約15000人、会長は韓国建設技術研究院院長の河珍圭(Ha, Jin Kyu)氏である。土木学会と協定関係にある。

論文発表、テーマ別討論、展示の他国際ラウンドテーブルが開かれた。テーマ別討論には英語セッションも行われ主として構造分野に関する詳細なテーマが扱われていた。

展示では主としてジェネコン、コンサルタントによるPRが行われていた。

主目的であった国際ラウンドテーブルについて報告する。

参加者は韓国と日本のほか台湾の3か国で、主要テーマは二つである。韓国より、2004年8月ソウルで開かれるCECAR(アジア土木技術国際会議)について、論文提出、基調講演講師の選定などの案内があった。また日本から、SCI(Scientific Citation Index)の重要性がますます増大する傾向にかんがみ、またアジアのアカデミアの評価が不当に低下することを防ぐた